

福島県環境創造センターの概要



平成 26 年 12 月 19 日
福島県

環境創造戦略拠点の基本理念

本県では国内外の英知を結集して、汚染状況の詳細なモニタリング、放射性物質の動態解明、除染技術の開発、農林水産業の再生に関する技術開発、人材育成等に取り組む環境創造戦略拠点を整備することとし、基本理念を取りまとめた。

原子力災害により、本県の自然環境と生活環境は放射性物質に広く汚染され、多くの県民がふるさとを離れ、今なお将来の見通しもたない状況にある。

【自然環境】

- ・水
- ・大気
- ・土壌
- ・森林
- ・野生生物

【生活環境】

- ・住宅
- ・道路・公園
- ・食物(農林水産物等)
- ・田畑
- ・廃棄物
- ・汚泥(下水等)

第一フェーズ 環境回復期

① 放射性物質により汚染された環境の回復

- ・詳細なモニタリング調査
- ・除染の推進と効果的、効率的な除染技術の確立
- ・除染に伴って生ずる土壌の処理方法等の調査研究

② 農林地等の再生と安全・安心な農林水産物の生産

- ・農林地等の放射性物質の除去低減技術の確立
- ・農林水産物の効果的なモニタリングと迅速な情報の発信

③ 国内外の英知を結集し、幅広い分野の研究の統合

- ・国内外の研究者、研究機関等との連携
- ・放射線と幅広い分野の研究を統合的に実施

④ 世界が注目する事象・知見の収集と発信

- ・調査研究成果等の情報収集と国内外への発信
- ・環境問題の解決に向けた人材育成と教育

⑤ 環境共生・創造の実現

- ・放射線に関する情報が正しく理解される社会の形成
- ・美しく豊かな環境の創造と継承

第二フェーズ 環境創造期

子どもたちが
安心して快適に
暮らせる
環境づくり

現在

時間軸

将来

②「農林地等の再生と安全・安心な農林水産物の生産」については、県農林部局が担う。

環境創造センターの機能と主な取組

① 環境放射能等のモニタリング機能

- 1 きめ細かな環境放射能モニタリングシステムの構築・運用
- 2 環境放射能モニタリングデータの一元管理・解析・評価
- 3 緊急時環境放射能モニタリング体制の構築
- 4 一般環境中における有害物質等のモニタリング及びデータの一元管理

② 環境回復・創造技術の調査研究機能

- 1 環境の回復・創造に向けた大気、水、土壌等に関する技術調査研究
- 2 環境の回復・創造に伴う廃棄物の処理・処分に関する技術調査研究
- 3 環境回復・創造に向けた共同研究のコーディネートと地域政策研究
- 4 関係機関への提言に向けた調査研究
- 5 内外研究機関を対象とした交流ネットワークの構築

③ 情報収集・発信機能

- 1 環境放射能モニタリングデータ及び一般環境中における有害物質等のモニタリングデータの収集・発信
- 2 放射線・除染に関するデータの収集・発信
- 3 調査研究成果の内外への積極的な発信
- 4 情報収集・発信機能に必要となる施設・設備等の整備

④ 教育・研修・交流機能

- 1 県民などの環境放射能等に関する学習活動の実施・支援
- 2 放射線等の影響に関するリスクコミュニケーション、地域コミュニケーション
- 3 環境の回復・創造に関する技術研修
- 4 内外研究機関やNPO・地域住民等を広く対象とした交流ネットワークの構築
- 5 教育・研修・交流機能に必要となる施設・設備等の整備

三春町施設

- 日本原子力研究開発機構(JAEA)及び国立環境研究所(NIES)が入居
- JAEAは、主に放射性物質による環境の汚染を除去し、環境を回復させるための調査研究を実施
- NIESは、主に放射性物質の動態解明や災害廃棄物についての調査研究を実施



研究棟

- 福島県が入居
- 1階は事務室、環境放射能のモニタリングや調査研究を行うエリア
- 2階は大気、水、廃棄物のモニタリングや調査研究を行うエリア



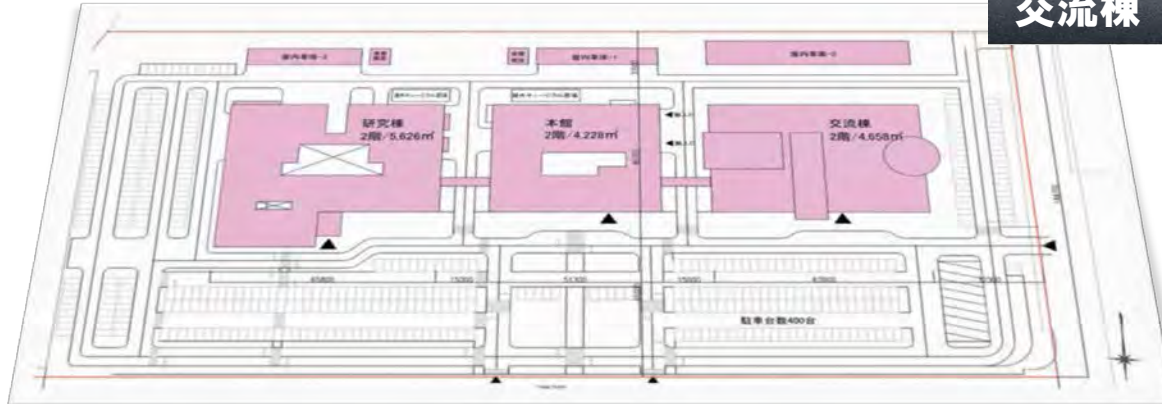
本館

- ふくしまの子供たちが安心して輝く未来を創造するための「対話と共創の場」
- ふくしまの環境を知り、創り、発信する展示エリア、国際会議・学会・シンポジウム等を開催する会議室エリア及び管理エリアより構成
- シアターでの映像や企画展示は、国立科学博物館と連携・協力



交流棟

- モニタリング、調査研究、情報収集・発信、教育・研修・交流の4つの機能を持つ
- 国際原子力機関 (IAEA) の緊急時対応能力研修センターが同居
- 子供たちはもとより国内外からの見学者を迎えられる県民に開かれた施設



附属施設



- 野生生物のモニタリングを専門的、効率的に行うための施設です。
- 放射性物質に汚染された野生生物の生態解明、生物多様性の保全に関する普及啓発を行います。



- 猪苗代湖などの河川・湖沼のモニタリングを専門的、効率的に行うための施設です。
- 猪苗代湖と裏磐梯湖沼群における水環境保全に関する情報発信及び普及啓発を行います。
- 猪苗代湖周辺で自然環境に関わるNPO等の活動拠点としても活用します。

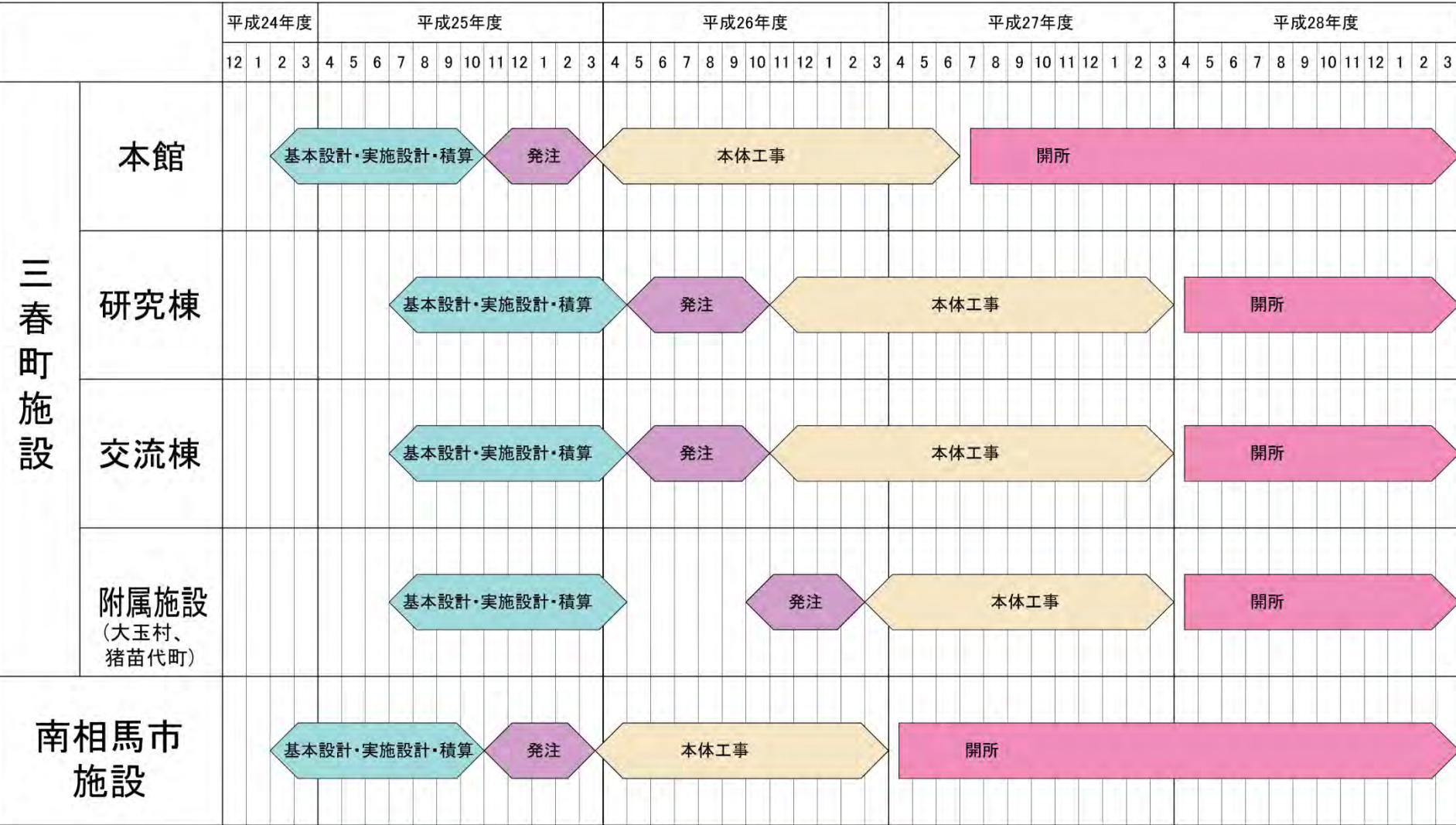
南相馬市施設



- 原子力発電所周辺のモニタリングや安全監視の機能を担う施設
- 隣接する(仮称)浜地域農業再生研究センター及び原子力災害対策センター(南相馬市)と連携

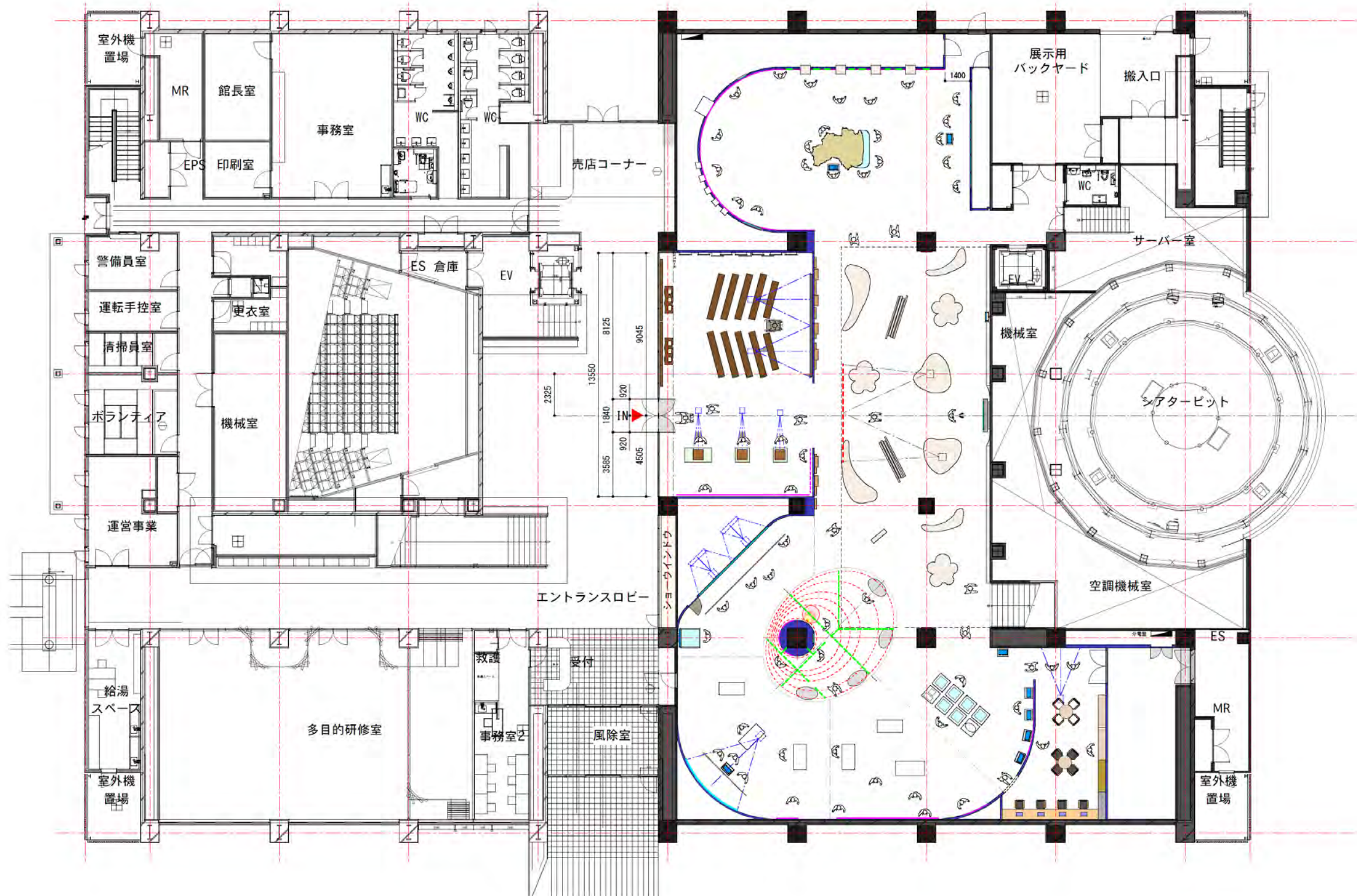


整備スケジュール



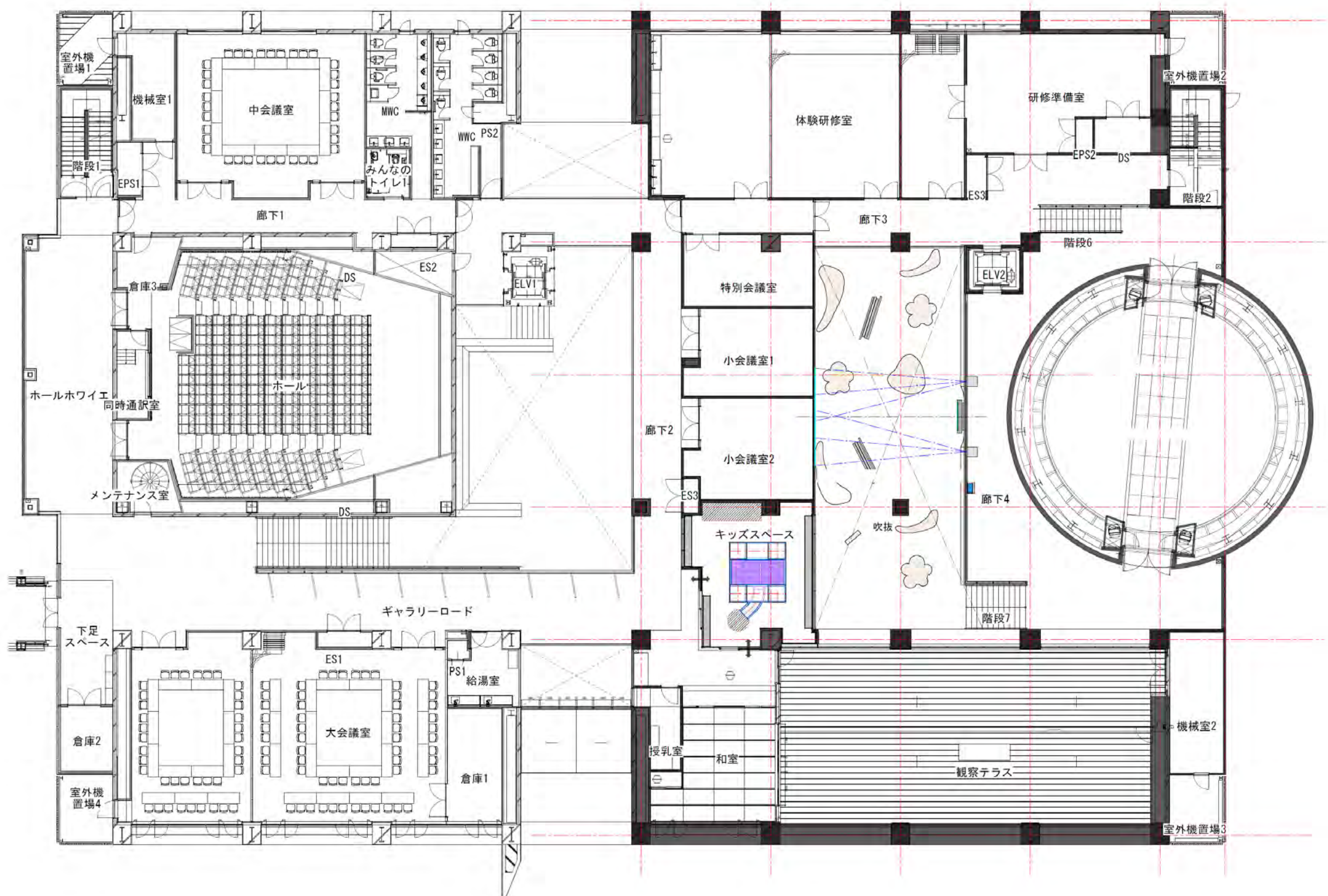
環境創造センター交流棟 1階平面図

放射線や環境について学ぶ展示室や学会・国際会議などに活用されるホールなどを整備



環境創造センター交流棟 2階平面図

全球映像を体感できる環境創造シアターや各種ワークショップを開催する体験研修室、キッズスペースなどを整備

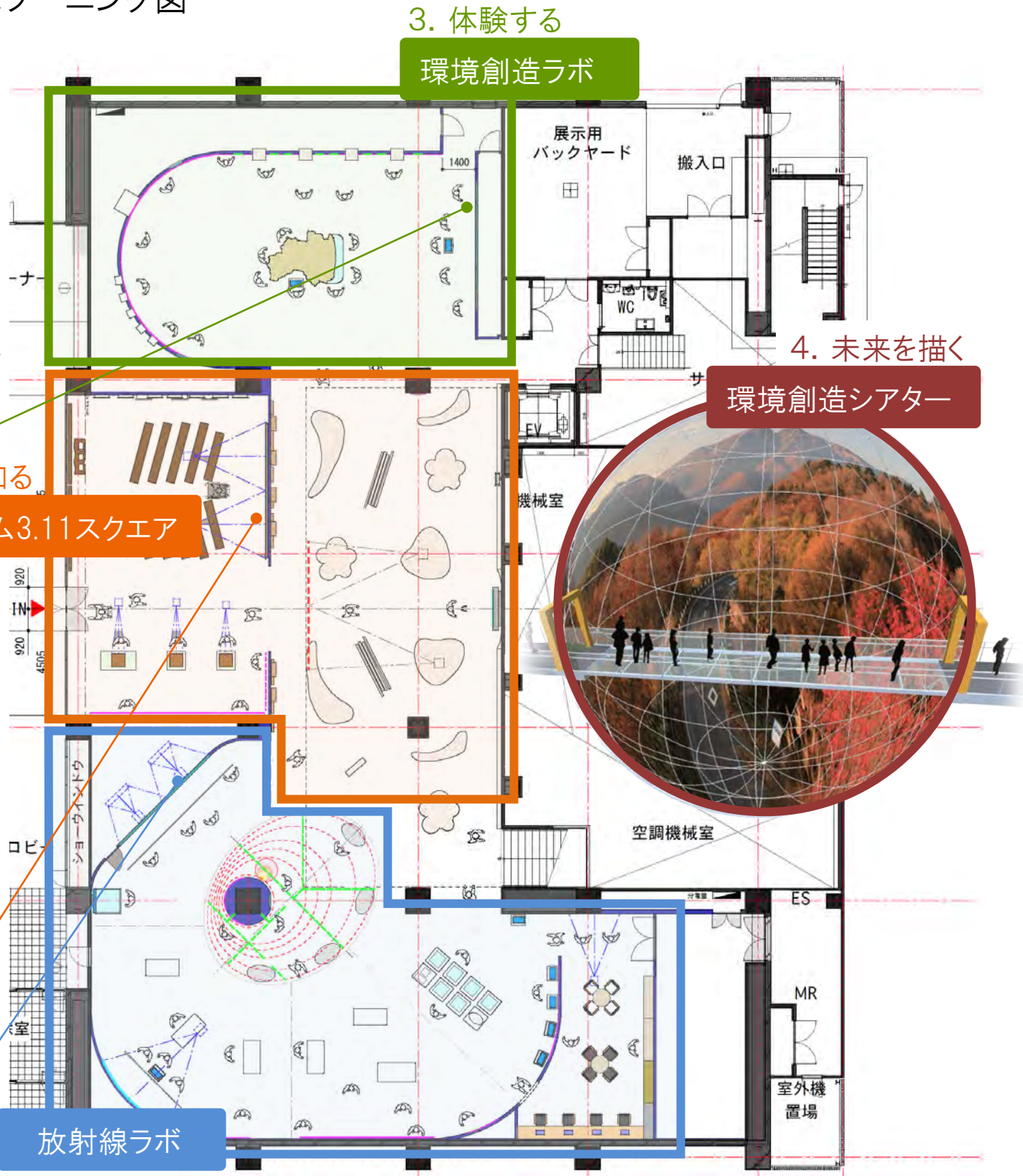
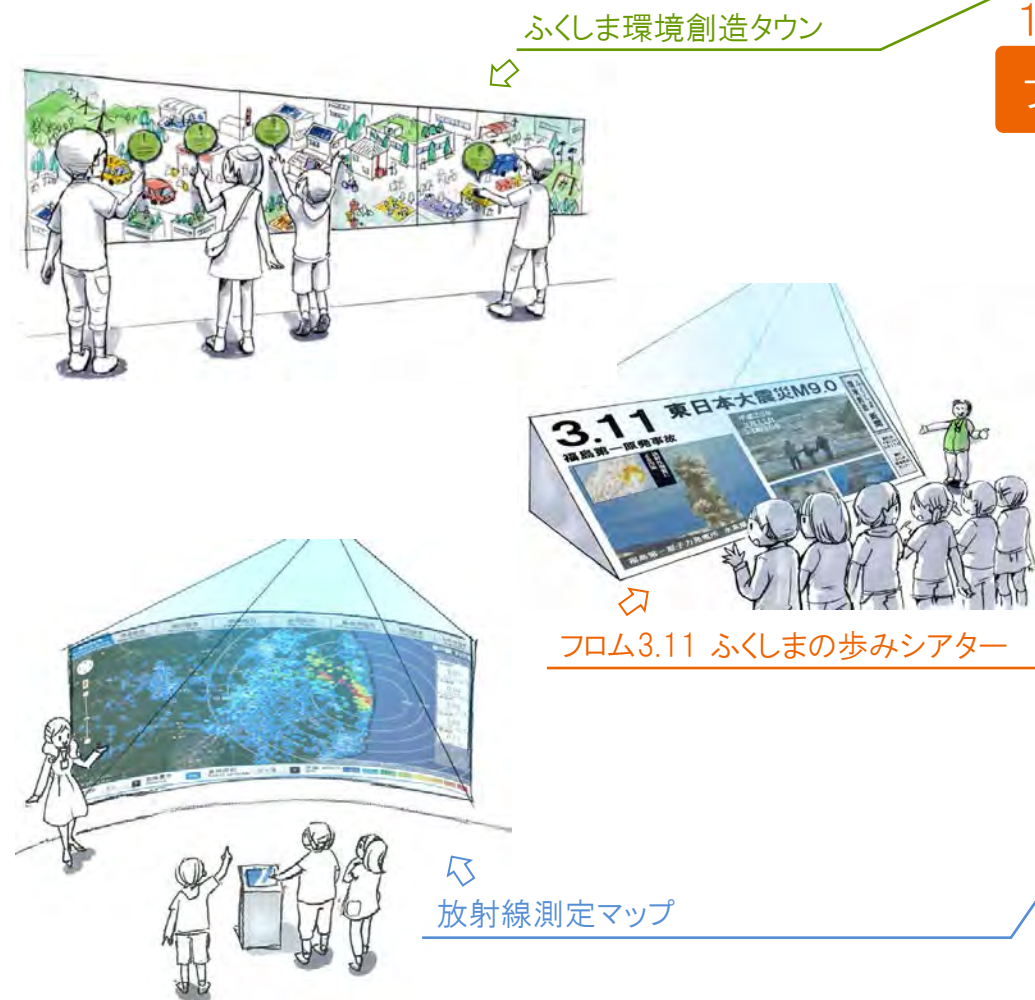


■ 基本的な考え方

展示体験を通して県民の不安や疑問に答え、放射線や環境問題を身近な視点から**理解し**、**環境の回復と創造への意識を深める**ことを目指します。

学びや体験から得た知識や深めた意識を、子どもたち、県民や様々な団体が共有し、それぞれの立場から**福島**の未来を**考え、創り、発信する**きっかけとなる場を目指します。

■ 展示ゾーニング図



1. 知る
フロム3.11スクエア

放射線ラボ
2. 体験する

3. 体験する
環境創造ラボ

4. 未来を描く
環境創造シアター

子どもたち
向け

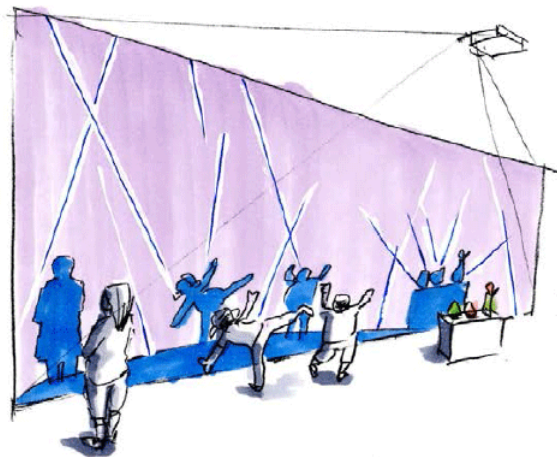
効率的・効果的な放射線学習の実現に向けて

■ 交流棟の利用に向けた基本的な考え方

県教育委員会作成の指導資料や社会科見学動向に準拠して、対象・年齢や滞在時間に合わせた活動プログラムを開発します。

展示室の整備

主に小学校高学年児童を対象とし、放射線について学び、また、環境の回復・創造への意識を醸成するための展示室を整備



展示コーナー
「放射線見える化ウォール」のイメージ

県カリキュラムとの連動

「放射線等に関する指導資料」に合わせた学習メニューを開発

例) Fukushima Environment Note

学年別のカリキュラムや小中学生、高校生の習熟に合わせ、福島環境や未来を子どもたちが考えるための記入式ノート



来館前後のフォローの充実

教育庁と連携して施設の使い方や学習プログラムを策定

例) 事前・事後学習用のフォローツール開発

交流棟の活用方法や来館前後のフォローツールを教員と協働で作成



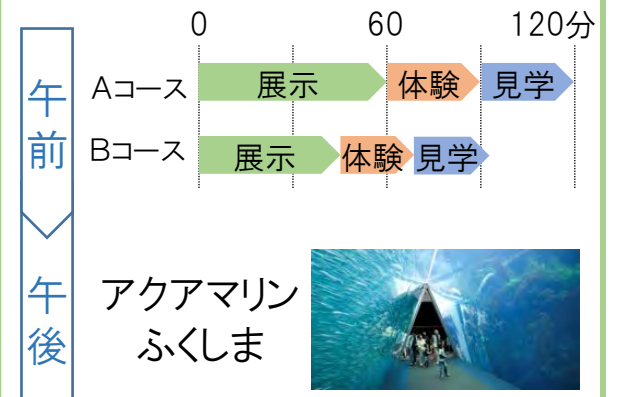
事前・事後学習のための貸出キット開発など

社会見学動向の反映

団体利用のニーズにあわせた1日をととした楽しみ方を提案

例) 周辺施設との連携による環境、地域学習

環境創造センターと別な場所による環境と地域学習などのルートを提案



県民・事業者
向け

県民や事業者、クラブ活動、家族などの幅広い利用に向けて

■ 来館目的に応じたプログラムの開発

利用者別のプログラム開発と情報の発信を重視し、また、県内外の関連施設との連携により利用促進を図ります。

研究者や学会参加者の参画

イベントとして、環境創造センターの研究者や交流棟で開催される学会参加者などが一般向けに行う交流事業を実施

例) 研究者との交流イベント

環境創造センターの研究者などによるワークショップや公演などの実施



活動の場・機会の提供

県民やNPOなどの活動の場・機会の創出と地域住民の日常利用できる場の提供

例) 交流棟運営への参画

NPO、ボランティアなどによる、展示事業やワークショップなどの交流棟運営への参画



県内外の関係施設との連携

国立科学博物館との連携や除染情報プラザとの情報共有を推進

例) 国立科学博物館との連携

シアター360の映像コンテンツの貸与・借用や県内巡回展での協業を推進



さらなる波及に向けて

県内・国内外への情報発信

研究成果や最新の環境回復・創造に関する情報、施設での活動や参加者の活動成果をWEBやSNS等で発信します。

